

経済レポート

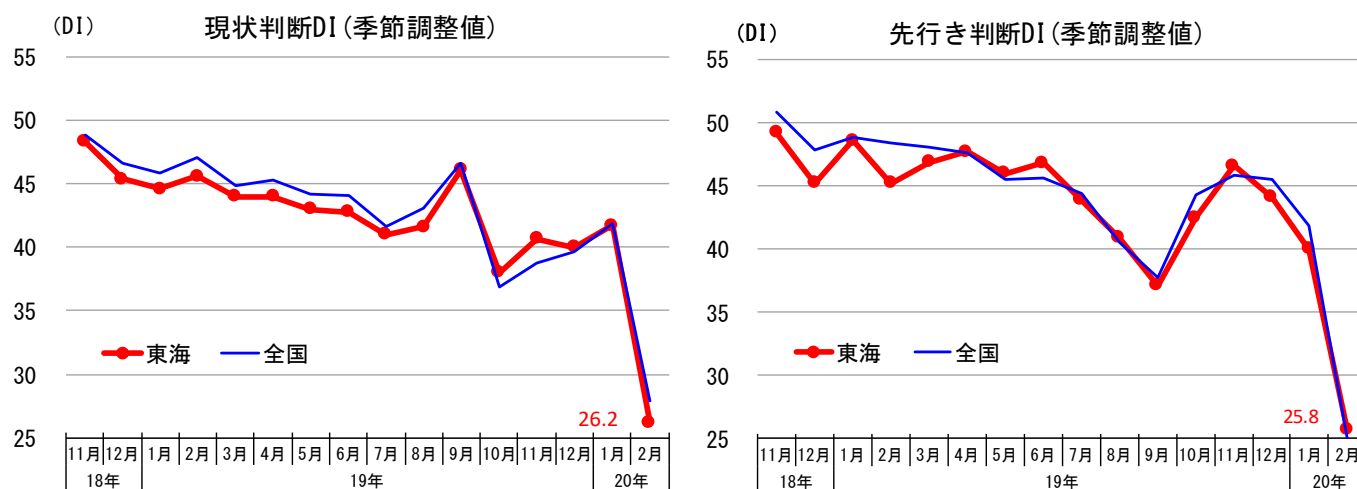
景気ウォッチャー調査(東海地区:2020年2月)

～ 新型コロナウイルス問題でDIが大幅に低下～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 3月9日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の2月¹の

現状判断DI(季節調整値)は、前月差-15.5ポイントの26.2と2ヶ月ぶりに大幅に低下した。
 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-14.2ポイントの25.8と3ヶ月連続で大幅に低下した。



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化している。先行きについては、一段の悪化が懸念されている。

とまとめ、下方修正した。

(前月のまとめ)

「弱い動きが見られる。先行きについては、新型コロナウイルス問題の経済活動への悪影響が懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に厳しい状況となっている。先行きについては、一段と厳しい状況になるとみている。

とまとめている。

(前月のまとめ)

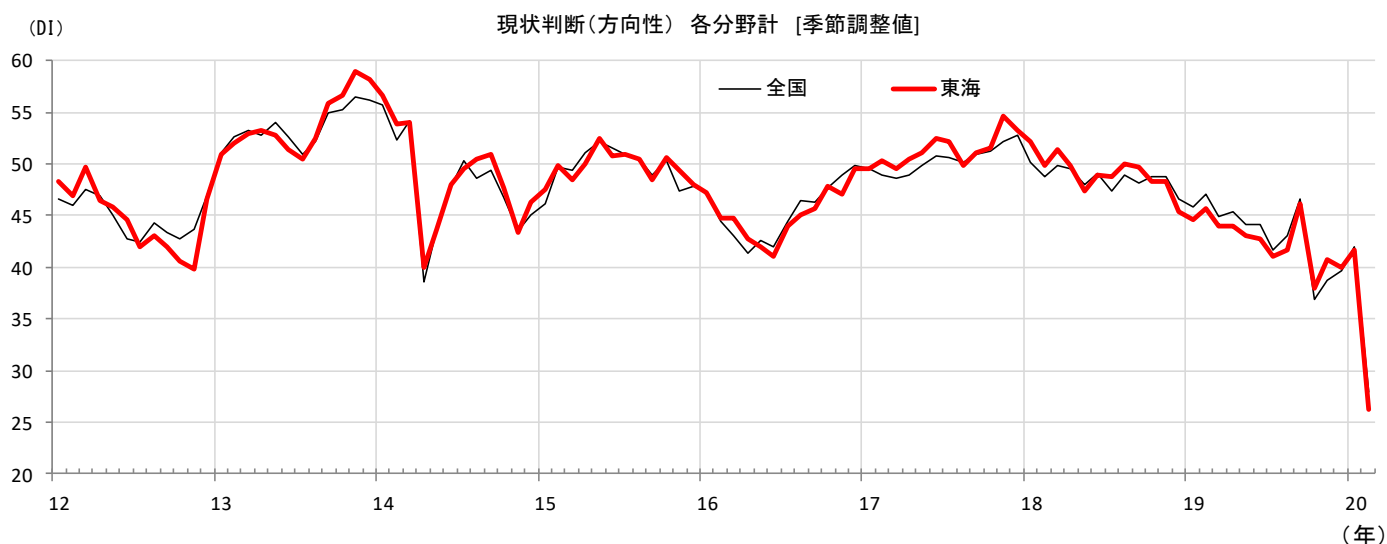
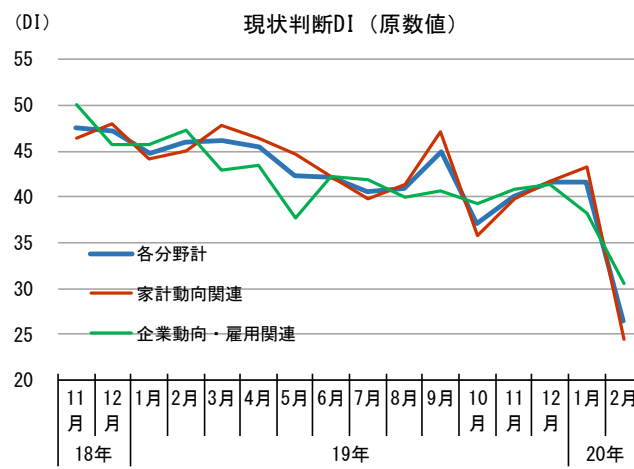
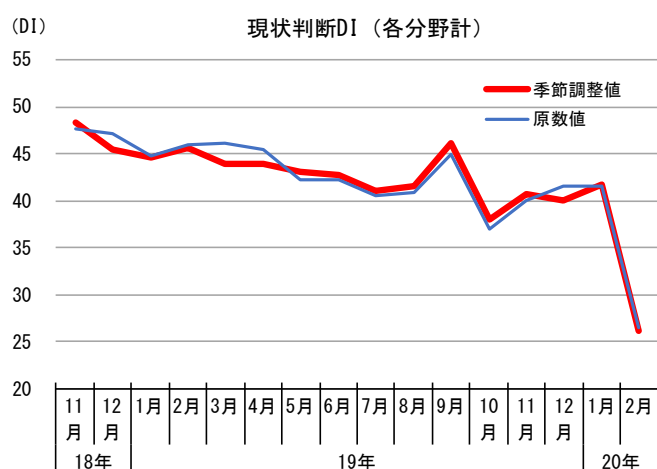
「このところ回復に弱い動きがみられる。先行きについては、新型コロナウイルス感染症の拡大等に対する懸念がみられる。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

(1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI²(季節調整値)は、前月差-15.5ポイントの26.2と2ヶ月前ぶりに大幅に低下し、横ばいを示す50を23ヶ月連続で下回った。東日本大震災直後(2011年4月=23.5)以来の水準まで低下した。新型コロナウイルス問題が家計の消費活動、インバウンド消費、企業活動に悪影響をもたらしている。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同-18.7ポイントの24.5と4ヶ月前ぶりに大幅に低下し、横ばいを示す50を22ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同-7.8ポイントの30.5と2ヶ月連続で大幅に低下し、横ばいを示す50を15ヶ月連続で下回った。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は231、うち家計関連154、企業・雇用関連77。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

▶ 新型コロナウイルス問題が家計の消費活動、インバウンド消費に悪影響を与えている。

▲	一般小売店[土産](経営者)	今月後半は新型コロナウイルスの影響とみられる観光客の減少が起きた。終息宣言を待つほかない。せっかく好調で喜んだのもつかのまである。
▲	一般小売店[贈答品](経営者)	2月は毎年売上が伸びない。特に今年は暖冬もあり冷たい商品が売れない。また、新型コロナウイルスの影響が2月後半から出ており、客自身のイベントが中止され、予定されていた記念品等の売上が立たず、注文のキャンセルもきた。3か月前に比べ法人個人共に売上に陰りがみられ、マイナスに向かっている状態である。
▲	商店街(代表者)	消費税増税後、12月にやや良くなり、1月は少し陰りがみえた。今月に入り新型コロナウイルスの影響で来客数、販売量等全てが落ち込んでいる。
▲	スーパー(営業企画)	新型コロナウイルス対応による一部での一時的な特需があり、足元の売上は前年比で上がっているが、基本的な消費意欲は消極的に感じられる。
×	商店街(代表者)	新型コロナウイルスの影響がある。空港や鉄道系の売店は客が激減しているため、30%以上の販売減である。商店街の売上も平日で10%、祝祭日で20%の落ち込みがある。
×	百貨店(経理担当)	新型コロナウイルスによる影響で、インバウンドが大きく減少している。
×	コンビニ(企画担当)	2月に入り、新型コロナウイルスの影響が非常に大きくなっている。インバウンドや観光客の利用が多い店舗は売上が前年比70%程度、来客数も前年比75%に落ち込んでいる。全店舗の売上も前年比で10%程度減少している。
×	観光型ホテル(支配人)	今月に入って、なすすべがない状態となっている。宿泊人員、宿泊宴会・一般宴会共に前年比40%のダウンである。無論、インバウンドは全てキャンセル、遠方からの団体もキャンセルが相次いでいる。食堂部門も、大河ドラマの勢いに乗ってこれからというときに、新型コロナウイルスの影響で客足が激減している。

【企業動向・雇用関連】

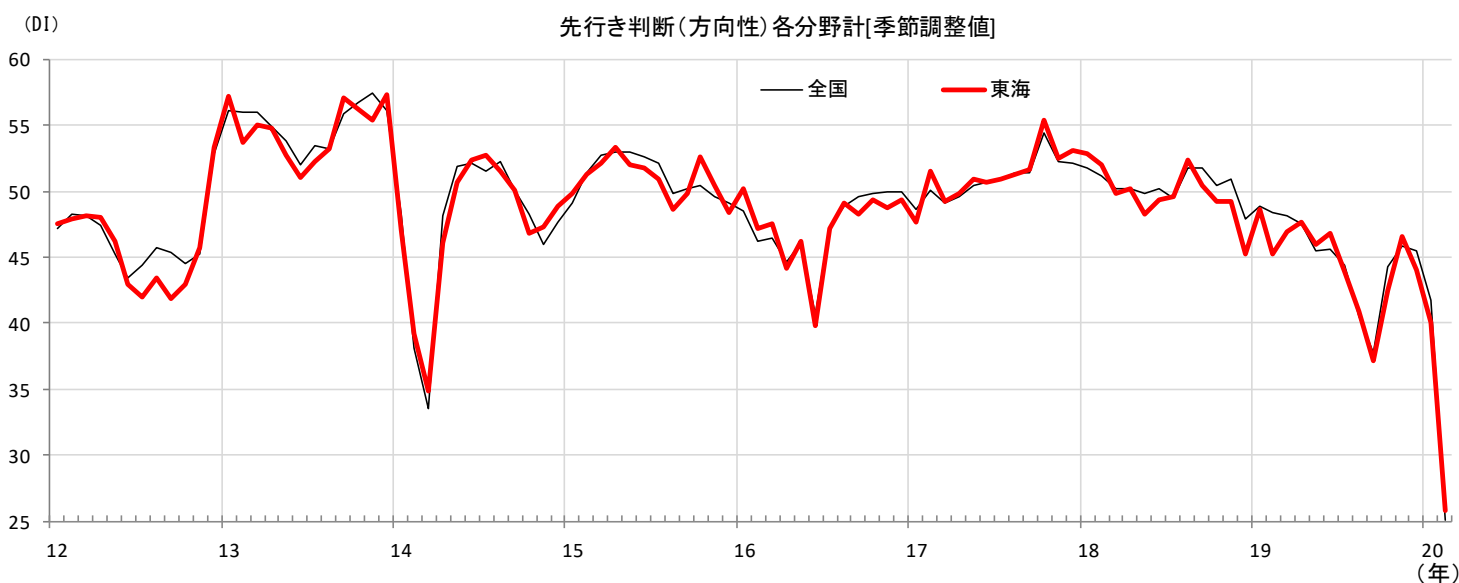
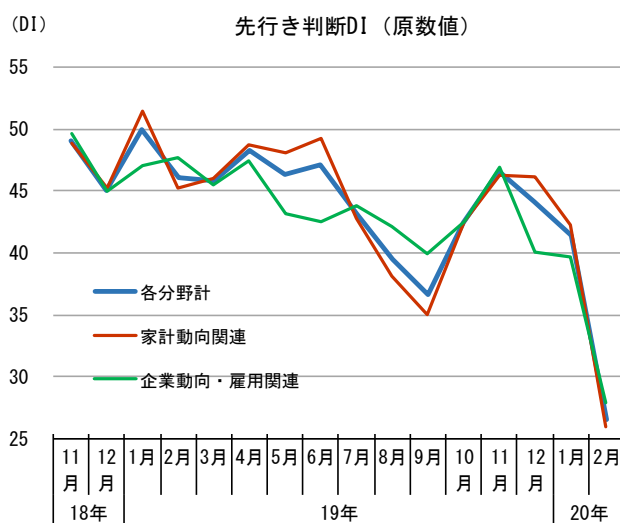
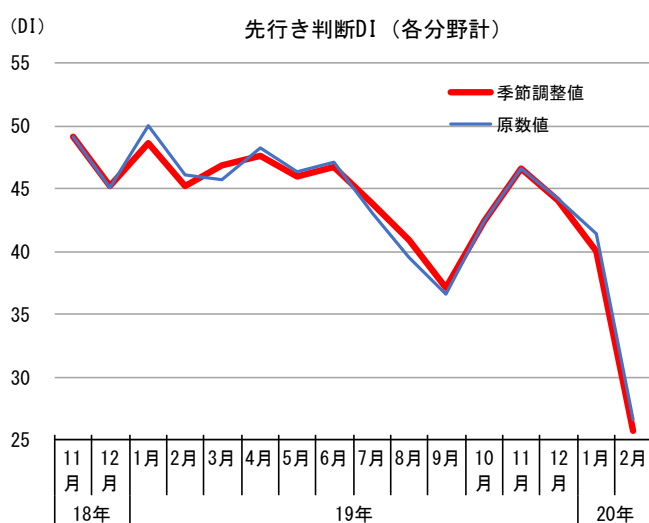
▶ 企業・雇用関連でも、新型コロナウイルス問題による悪影響の指摘が急増した。

▲	輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	新型コロナウイルスの影響により、中国の出資先もフル稼働には程遠い状況であり、車部品のサプライチェーンの破綻が出てくる。
×	鉄鋼業(経営者)	前年末から受注量、販売量の減少が止まらず、併せて新型コロナウイルスの関係で、海外からの部品調達などの不安感があって生産状況も上がっていない。例年比で5%くらいは落ちている。
×	電気機械器具製造業(経営者)	客先の業界全体で新型コロナウイルスにより設備投資を見送る様子が見が続いているため、当社の売上がほとんどない状態である。IR法案、のめり込み防止対策法案の動きや規制による機種撤去が開始されているなど良くない状況にある。東京オリンピックに関連して4月から施行の施設内全面禁煙の影響もどうなるのかわからない。
×	人材派遣業(営業担当)	新型コロナウイルスの影響により、生産停止や仕入れ困難になる企業が発生している。
×	人材派遣会社(社員)	今月中旬から新型コロナウイルスの関係で、特に法人関係は予約のキャンセルが相次いでいる。非常に悪くなっている。

2. 景気の先行き判断 (2~3ヶ月先の見通し、方向性)

(1) DIの動向

- 2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI (各分野計: 季節調整値) は、前月差-14.2ポイントの25.8と3ヶ月連続で大幅に低下し、横ばいを示す50を17ヶ月連続で下回った。新型コロナウイルス問題への懸念が高まっている。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同-16.3ポイントの26.0と3ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同-11.8ポイントの27.9と3ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を17ヶ月連続で下回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

▶ 新型コロナウイルス問題への懸念が急速に高まっている。

▲	商店街(代表者)	中国からの物流の影響で、予定どおりに納品できず資金の回転率が下がる。
▲	家電量販店(店員)	中国での製品製造が通常どおりではなくなりつつある。多くのメーカーのいろいろな製品の納期がじわじわ延びてきている。商品が複数から選べるような状況でないとい購買意欲は落ちるので、購入の先送りが起きそうである。
▲	家電量販店(フランチャイズ経営者)	新型コロナウイルスの影響で納期未定の商品が出てきた。パソコン等在庫があれば売れる物もあるのに、中国の生産が止まっているため納期未定で売れない。外出自粛ムードで客足が減り、人気商品も納期未定でダブルパンチである。余りインバウンドの恩恵を受けていない身としては、中国政府に文句の1つも言いたくなる。
×	一般小売店[酒類](経営者)	新型コロナウイルスの影響で飲食街は個人経営の店が閉店するなど深刻である。
×	百貨店(総務担当)	新型コロナウイルスが落ち着くまでは、相当厳しい状況が続くものと想定している。学校の急な休校により、従業員の出勤や勤務対応等への対応でなかなか営業面のフォローにまで手が回らない状況である。
×	スーパー(店員)	新型コロナウイルスの影響か、客は早めに買物を済ませようと滞在時間が短いように見受けられる。特売セールや広告を出そうにも、効果が期待できない。
×	乗用車販売店(営業担当)	せっかくの繁忙期だが、ジャンルが違っても物や人の流れが止まることで、先の不安から客の購買意欲も低下すると見込まれる。新型コロナウイルスによる影響が大きくなることは間違いない。

【企業動向・雇用関連】

▶ 企業動向関連でも、新型コロナウイルス問題による悪影響を指摘する声が増した。

▲	窯業・土石製品製造業(社員)	新型コロナウイルスの影響で中国向け出荷分が減り、生産量を抑え始めた客があり、しばらくは悪化し続ける。
×	食料品製造業(営業担当)	新型コロナウイルスの影響が大きく、取引先において休業施設が多く出ている。販売数減少の歯止めが利かない。
×	輸送用機械器具製造業(品質管理担当)	新型コロナウイルスの影響で部品が入らないことが、今後も改善されるか見通せない。
×	輸送業(エリア担当)	新型コロナウイルスの影響が全世界でまん延しているが、この状況以前の段階で景気の波が下降していると実感していた。新型コロナウイルスは突発的な出来事で、このことを差し引いたとしても、荷物の量はデータからみても段々と落ちてきている。この流れはまだ続き、回復への明るい兆しが無い。

▶ 雇用関連でも、新型コロナウイルス問題による悪影響が続くと見込まれる。

▲	人材派遣会社(営業担当)	自動車メーカーの主要客の来年度取引予算は想定よりも軽微な削減にとどまったが、それでも削減された予算分、稼働エンジニアの人数は4月以降減る。また、新型コロナウイルスの影響による経済活動の鈍化で、稼働を終えたエンジニアの次業務への配属が順調に進まない可能性があり、2~3か月先の景気はやや悪くなると見込む。
×	人材派遣業(営業担当)	引き続き新型コロナウイルスの影響により、製造業の生産縮小、大規模イベントの中止や延期で、消費が大幅に落ち込むと想定される。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。